

いばらき見聞。



よねかわ なおき
米川 直貴さん

社会福祉法人 水戸市社会福祉協議会



水戸市社会福祉協議会の権利擁護サポートセンターでは、認知症、知的障害、精神障害などの理由により、判断能力に支援を要する方の権利を擁護するとともに、権利が損なわれた場合に相談に応じ、住み慣れた地域において安心して暮らし続けられるように支援することを目的として「県央

地域成年後見支援事業」と「日常生活自立支援事業」に取り組んでいます。

米川さんが担当しているのは、判断能力に支援を要する方に対し、家庭裁判所が選任した成年後見人等が、不動産や預貯金等の財産を管理したり、施設への入所に関する契約等の法律行為を行う「成年後見制度」に関する相談業務、社協が成年後見人等となる法人後見での利用者支援、さらにはパンフレット等の啓発資料の作成、ホームページやSNS等での普及啓発などです。「今後、高齢化が進み、認知症の方も増え、さらに成年後見制度の必要性が高まると言われています。現在も成年後見制度の利用が望ましい方が利用できていない



成年後見制度で 安心できる日々をサポート。



のではないとも言われており、必要な方が制度を利用できるよう、地域住民や専門職等への啓発活動に取り組んでいるところです。ただ利用者が増えればいいということではなく、検討されている方の課題が、他の制度や社会資源によって補えないかと、よく話を聞きながらその方に合った支援を一緒に考えています」と米川さん。

「ありがとう」と言ってもらえることがやりがいい

常磐大学で福祉を学んだことをきっかけに福祉の仕事に就いたと米川さん。在学中の社会福祉援助技術実習では、地元の社協で1か月近く体験。「社協は子どもから高齢者まで、幅広い年齢や様々な状況にある方と接することができるのと同時に、地域の課題解決のために地域住民と協働する団体であることを体感し、社協で働きたいという気持ちが強くなりました」と当時の思いを話していました。

仕事のやりがいを感じる時は、「成年後見制度を必要な時に利用できる、もしくは困っている方に紹介できるぐらい、誰もが知っている制度にしていきたいと普及啓発や相談に応じておりますが、そのために効果的な方法や伝え方を考える中で難しさと同時にやりがいを感じます」とのこと。また、利用者や相談者に合った支援方法やアプローチを考え、関係者と連携しながら取り組み、本人や家族から「よかったわ」とか「ありがとう」と言ってもらえることも大きなやりがいになっているということです。

支援に100点満点はないから奥深い

「どんな人にも意思があり、何かを選択しなくてはいけない場面では意思決定のお手伝いをします。意思表示は、言葉からだけでなく、文字や絵にしてコミュニケーションをとったり、表現が難しそうな方でも、表情やまばたきなどから読み取ることもあります。また、関係者も交えて、複数回お会いしたりして、その方の意思を確認していきます」。その際に重要となるのが、関係機関との連携です。在宅の方の場合は、ケアマネージャー、

ヘルパー、医師、看護師、福祉機器の会社等とともに取り組みます。さらにサポートセンターには、米川さんを含め3名の社会福祉士がいるので、一緒に訪問したり相談をしながら進めています。

大変な仕事だからこそ感じる魅力もあり、それは「福祉の仕事の奥深さ」なのだと言います。「支援に100点満点はないと感じています。相談者や利用者にとって何が良い支援なのかを日々模索しています。支援者として状況・環境などを考慮し、本人に良い支援を考えていますが、それが本人の希望と合致するとは限りません。本人の希望を尊重し、その人らしく暮らせるよう、本人も含め関係者と話をしながら、支援していくことは奥深さがあります」と難しさを語ります。

目標は地域住民に頼られる存在になること

米川さんの今後の目標は、「何か困ったことがあったら相談してみようと思える社協にしていきたいし、まずは米川に相談してみようと言われるような職員になっていくことが目標です。また、現在担当している部署においては、成年後見制度をもっと普及させたいし、社会福祉援助技術実習などで学生等と関わる場合には、福祉の大事さや社協の魅力、現場で活躍できるようなポイントをしっかり伝えていきたいです」と語る意欲的な「きりり人」です。

人が好き、人と関わりたい人におすすめの仕事

福祉の仕事は、「人に関わる仕事に就きたいという人におすすめの仕事です」と米川さん。さらに求められるのは、「一人ではできないことには限界があるので、職場内でも、関係機関との調整でも、チームワークが求められます。チームワークを大事にする人が向いていると思います」とのこと。福祉の仕事を目指す人へのメッセージは、「人と接することが好き、人と関わりたいという人に、ぜひ飛び込んでほしいです」と話していました。

